

老年期における色彩感情の研究(6) 一慣用色名、系統色名からみた男女別服装の嗜好色について一

仙台白百合短大 鈴木良子 山梨県立女短大 小菅啓子 東京家政大短大 ○長塚こずえ
滋賀女短大 成田巳代子 東京家政学院短大 田原靖子 高野美栄 京都短大 田岡洋子

目的 高齢化社会となった今、老年期の人々が健康で快適な生活をするために多くの問題点が指摘されている。急変する社会環境の中で、こころと色彩の関係も重要な課題の一つである。長い老年期を豊かに生き生きと暮すには、よりよい色彩環境が必要である。本報では、老年期の人々の服装色について、性別・年齢別に調査を行い、JIS Z 8102(物体色の色名)に対応した被服設計のための資料を得ることを目的とした。

方法 [(5)～(7)報同じ]

1) 対象

2) 調査時期

3) 手続き

4) 場所

		嗜好色				着 装 色			
		洋 装		和 装		洋 装		和 装	
性別	員数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
男	574	357	217	0	0	354	213	3	4
女	1526	977	549	0	0	942	510	35	39

結果 着装したい色彩は男性では紺(暗い紫みの青)、ねずみ色(灰色)、銀ねず(明るい灰色)に集中し、年齢別にみると前期より後期に無彩色嗜好が強い。女性は藤色(明るい青紫)、ラベンダー(灰紫)、わすれな草色(明るい青)、ききょう色(こい青紫)、あかね色(こい赤)が上位となったが、男性に比べ流行色に対する関心が強く嗜好色が分散している。トーンは男性前期と女性後期は暗清色、女性前期は明清色を好む傾向がみられた。着装色は和装前期はくすんだ、後期は灰が多い。女性に比べ男性は色に対する潜在意識が高く、着装したい色彩と好きな色彩を区別して選択する傾向が認められた。